

負けるが勝ち  
ルカ 23:35-43

2016 11 20  
牧師：安達均

主イエスキリストの恵みと平安が集まった会衆の心の中に豊かに注がれますように！

まだ中学二年生のときだったと思う。通っていた中学校でケンカがあった。休み時間中に突然一人の大声が聞こえ、テーブルが倒されたような音がして、すぐにほっぺたを殴られた音まで聞こえてきた。私は教室の左側の一番前の席が私の席で、そこに座っており、後ろの友人に話しかけていたときだった。

教室の反対側、つまり右側の方、前から3列目4列目付近でのケンカだった。あんなケンカを見たのは、後にも先にも、その時かぎりだった。私が見たときには、おしのけられたテーブルのため、広いスペースができた。原因はまったくわからないが、そのスペースの中で、体の大きな生徒二人が立ってみつめあっていた。

大声の主は、少々不良っぽい、長田君（偽名）が教室の黒板から遠い方に立っていた。黒板に近い方にたっていた佐藤君（偽名）に一発くらわせたことはあきらかだった。長田君からはさらに「なんなんだよーおまえは」みたいな大きな暴言が聞こえ、さらにもう一発、佐藤君のほっぺたをひっぱたいた。二発もひっぱたかれた佐藤君も、反撃してしかるべきではないかと思ってしまった。おそらく回りのものも、同じような感じで見えていたように思う。

しかし、二発もはげしくひっぱたかれ、ひっぱたいた手のあとでほっぺたが紅潮してきた佐藤君は、いっさい反撃することもなく、ひたすら、永田君をじっと見

つめ返しただけだった。佐藤君の方からは一切言葉は出さず、また手を出すこともなく、立ち続けていた。数分経過する中で、長田君からは、「てめえは何なんだよう」というような相手をののしるような声がさらに発せられたが、結局、長田君はその場からいなくなった。

さて、本日、王なるキリストの主日、年間の暦では、最終日曜になるが、与えられた聖書箇所は、十字架につけられたキリストの場面である。今日の福音書箇所の少し前には、十字架につけられるまでの暴力があった。

十字架の一番上には、「ナザレのイエス、ユダヤの王」と書かれた板がついていた。それは罪状なのだが、ローマの占領下にあったユダヤの王の意味は、ローマをひっくりめた世界の王であり、世界の救い主と考えてよいと思う。

しかし、議員や兵士たちは、もちろんそんなことを信じているわけではなく、あざ笑う議員や兵士たちは、「お前は世界の救い主なのなら、十字架にかかっても自分を救えるはずだろう。」という意味をこめて、ののしられたのだと思う。暴力と暴言によって十字架に磔にされたイエスの姿が今日の福音書箇所だ。

イエスは、いっさいそれらの暴力に対して反撃したりすることなく、やられっぱなしである。また暴言に対しても、いっさい反論すらしない。救い主なら自分を救ってみろといわれても、十字架から降りるための行動をとることもなく、いうなり、されるなりである。正当防衛などという考え方はない。

キリスト教の長年の解釈は、イエスはもちろん、そこで奇跡を起こして、自分が十字架から降りてきてしまうことだってできたのであろうと考える。しかし、そのようなことは起こらずに、暴力、暴言を受けるままだ。

そこには、キリスト教は、暴力をよしとしているのか、というきわめて不自然とも思われる解釈すら出てくる危険性をはらんでいる。しかし、その点については、イエスがユダに裏切られて逮捕される時、イエスについてきたものが、大祭司の手下の耳を切り落としてしまうことがおこる。

その時、イエスははっきり、「やめなさい。」と言っており、イエスが暴力を振るうことをとめておられたことを思い出したい。では、さらに質問だが、暴力を受け、さらに暴言をはかれてしまう、それはやられっぱなしで、ケンカでいえば、負けっぱなし。そのような負けるいっぽうのイエスの姿から、いったい私たちは何を学んでいるのだろうか。

暴力を受けることは肉体的・外的な傷だけではなく、どれだけ内的に心も傷を負うことかと思う。暴言・暴力にあう悲惨な思い、みじめさ、無力感をイエスはすべての暴力被害者とともに体験されたと言うことも言えるのではないだろうか。

しかしイエスは、神への信頼と暴力を犯す民を赦す愛を持ち続けた。徹底的に無抵抗なイエスの中に、すべてを赦したまう憐れみと一体なって、暴力に打ち勝つ愛なるイエス、すべての権力者たちの中の真の権力者、

すべての王たちの中の愛なる王の姿が見えて来るのではないだろうか。

本日の説教タイトルは「負けるが勝ち」となっている。冒頭に、私が中学時代に出くわしたケンカの話をしたが、みなさんはどちらの勝ちだと思うだろうか？ 十字架の架けられても、今日の福音書の中の最後には、「今日樂園にいる」とまでおっしゃるイエスの姿を振り返り、「負けるが勝ち」という言葉の意味を考えて欲しい。残念ながら、いろいろなレベルで暴力がはびこっている世の中である。身近にも暴力が起こってしまう。今は日本という国が、憲法の解釈を換えて、駆けつけ警護という任務を付与された自衛官が中東に派遣されるという。このような時代にあって、イエスはどのように行動するように導いているのだろうか。アーメン